らんまんの光と影

投稿者　ボブ　デュラン

　朝ドラ「らんまん」は主人公牧野富太郎(1862~1957)の物語で、今月末で終了です。植物好きの私は毎日見ていますが、私が調べた事実と少し違う 3 点を言います。天真爛漫の富太郎になりたいが、ここはできるだけ正確に述べます。

１．　じつは富太郎は重婚でした。

今ならダメですが、145 年前の当時の状況なら理解できます。高知の裕福な酒造り「岸屋」の一人息子で生まれる。しかし幼少期に父、母、祖父と次々と亡くなる。オーナーの祖母は従妹の 3 歳下の猶(なお)を兄と妹のように育てる。そして祖母はお家のため二人を無理に結婚させる。
富太郎は幼少期から家より植物に興味を持ち 19 歳から度々上京して、実家は猶に任せ自分は段々東京に暮らし、25 歳で壽衛(すえ)16 歳と結婚し長女生まれる。
29 歳の時、岸屋が富太郎の天真爛漫の散財で破産のため帰郷して家財整理し、猶と長い間の腹心の番頭の結婚を認めました。

２．　矢田部教授の水難事故は 6 年後

教授より牧野の植物の標本や描写の才能を認められ東大植物学教室の出入を許されて、牧野はそこで研究者と交流し、本や標本や機材を利用でき、植物の本も出版できました。やはり組織運営の役人と天真爛漫の植物分類の標本作り屋の共同研究は 6 年間で終わりました。
朝ドラでは東大教授中で水難事故となっているが、事実はその後学内争いに破れても、師範高校学校の校長です。当時明治政府が優れた欧米の学問を修得するため、優秀な青年が洋行しました。夏目漱石はイギリス、森鴎外はドイツ、野口英世はアメリカでした。矢田部さんはアメリカでした、才能がありました。水難事故は東大追われてから 6 年後の事でした。

３．　壽衛の協力

今日は 9 月 9 日です、朝ドラは壽衛が渋谷の田舎の道玄坂で料亭「いまむら」を営業する時です。(ただ当時も少し花街でした)これが大成功します。天真爛漫の富太郎の大借金を解消するのに役立ちました。店は繁昌しましたが、東大の先生の奥さんが水商売の噂がたち、なんと思い切って料亭を売却して、その金で練馬区大泉に 700 坪の土地を買って、夫婦の終の棲家になりました。いまでは練馬区立牧野記念庭園になっています。
本当に富太郎は植物の本代は、講師代の何十倍でした、常に膨大な借金がありましたが、その度に救う篤志家が現れました。
最初は実家を破産させました。土佐の出身の三菱財閥の岩崎弥之助、京大の学生の池長孟、成蹊学園の中村春二、津村順天堂の津村重舎、それと全国の牧野の植物の本を見た、植物講習会に出た植物愛好家の方々でした。